



大腸がんのはなし

稲城市保健センター

☎378-3421

肛門からの出血があった時、痔のためと決めつけていませんか？もしかしたら、それは大腸がん、直腸がんからの出血かもしれません。日本における大腸がん・直腸がんは年々増加し、罹患者数は約10万人（2005年）、死亡数は男性3位、女性1位（2009年）と報告されています。原因として高脂肪・低繊維食、喫

煙、遺伝などが正常細胞の癌化に関与していると言われていています。症状は血便、便が細くなる、下痢、腹部膨満、腹痛、貧血などです。大腸がん検診では、便を提出する簡便な「便潜血検査」が広く行われており、早期発見、早期治療が提唱されていますが、残念ながら、かなり進行した段階で受診する方が多いのが現状です。

治療については、早期である粘膜がんでは内視鏡切除が可能で、それより深い病変に対しては、開腹手術、創が小さな腹腔鏡手術の他、抗がん剤治療を内服や注射で行うことがあります。また、手術をしても、局所に再発を

起こしたり、がん細胞がリンパ液や血液によって移動し、リンパ節、肝臓、肺、脳、骨に転移することがあります。治療法は進行度や年齢、体力、余病により異なり、一様ではありません。医師の経験主義や勘に頼るだけではなく、ガイドラインに基づいた治療が推奨されています。

病気の発見のためには、症状がなくても大腸がん検診を積極的に受ける他、日常から病気のサインを見逃さないことが重要です。気になる症状がありましたら、早めに医療機関にご相談ください。

稲城市医師会 小林 直之